

第144号/ ふじのくに静岡県

消防学校 ニュース



令和5年11月号

救助科 (第40期)

～あらゆる災害に立ち向う～

令和5年10月3日(火)～10月31日(火)の約1か月間、救助科を実施し、県内16消防本部(局)から43人と台湾基隆市消防局職員2人が入校しました。

救助隊員として救助業務に関する高度な専門知識と技能・技術を備え、多様化した災害救助事案の対応能力強化に重点をおき、「安全・確実・迅速」を念頭に安全管理を徹底した活動ができることを目標に、県内外の消防本部(局)の救助隊員及び台湾の隊員に座学や訓練指導に御尽力をいただいたほか、民間企業・団体などの協力を得ながら、時に厳しく時に楽しく、密度の濃い教育訓練を実施しました。

通常点検



車両破壊救助訓練 (廃車を利用した実践的訓練)



実火災体験型訓練



強制ドア開放訓練



CRM研修



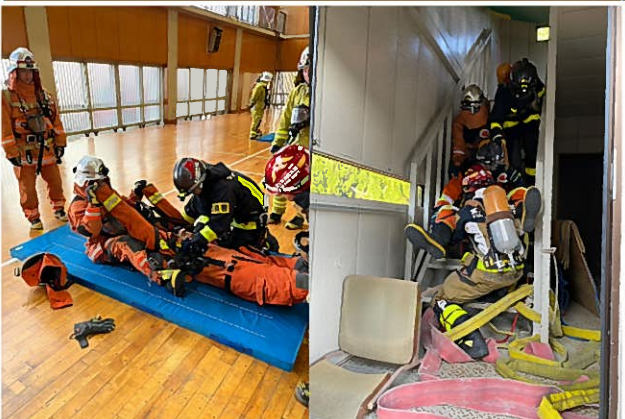
火災救助Ⅰ「緊急時対応訓練」



火災救助Ⅱ「屋内進入・検索救助訓練」



火災救助Ⅲ「災害救難活動」



都市型搜索救助Ⅰ「ショアリング」



都市型搜索救助Ⅱ「ブリーチング」



都市型搜索救助Ⅲ「CSR」(藤枝消防署)



都市型搜索救助Ⅳ「クリッピング・ムービング」



土砂災害対応救助Ⅰ「チェーンソー倒木伐採」



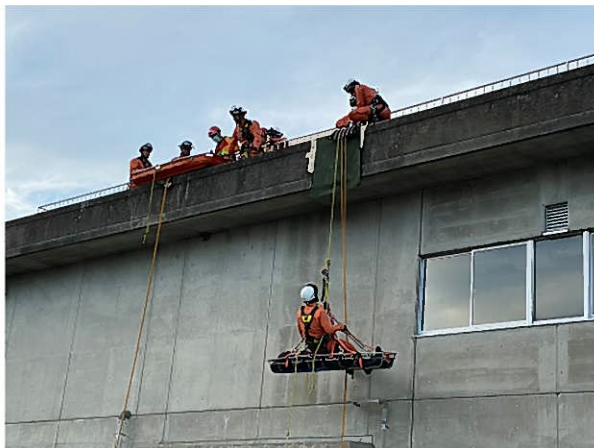
土砂災害対応救助Ⅱ「トレンチレスキュー・埋没」



震災時対応訓練「震災想定訓練」(災害救助犬静岡)



消防ロープレスキュー



救助科・初級幹部科合同訓練

学校だから大規模訓練が出来る！ 総勢63人 共通認識・情報共有!!

多数傷病者対応訓練（交通事故）



火災対応訓練（中高層建物火災）



（担当教官コメント）

入校生は24歳～37歳と年齢及び経験値の幅が広く、座学から実科訓練に至るまで救助歴に関係なく活発な意見・情報交換が行われ、コミュニケーションが取れていたと感じます。

感染症対策で校内生活の制約が厳しい中スタートし、学生間の雰囲気心配でしたが、訓練を重ねる度に団結力が結成され、主体性を持ち、訓練だけでなく準備から撤収に至るまで積極的に行動し、私にとっても見習うべき姿を見せてもらいました。

各講師や教育支援隊の方々から、様々な講義及び訓練を通して刺激を受け、多くの「気づき」を得たことでしょう。

救助科で得た「知識・技術・気づき」を各所属に還元し、時代と共に変化していく救助の知識・技術について積極的に情報共有を行い、各地域で御活躍されることを期待しています。

最後に、救助科第40期に御支援、御協力いただきました全ての方々に感謝申し上げます。

教務課主査 飯塚 誠（静岡市消防局から派遣）

消防団員現場指揮課程 (第10期)

~苦しい 疲れた
もうやめたでは
人の命は救えない~



令和5年10月1日(日)に指揮幹部科現場指揮課程を開催し、県内の消防団員74人が参加しました。本課程は、動画配信と単日開催としました。

座学については、静岡県消防協会の松浦会長、静岡大学の牛山教授の講義などを事前動画配信し、ドローン取り扱い訓練、多数傷病者対応、トリアージ訓練を当日に実施しました。実科訓練は、火災現場想定で火災対応指標(BE-SAHF)に準じて評価、報告の要領を訓練しました。その他、各ブースに分かれての重量物除去、破壊機具の取り扱い訓練など多岐にわたる内容となりました。

(担当教官コメント)

指揮する立場の団員の方々にとって、今後の課題や考え方を見直す機会となったようです。

トリアージの実施要領や、火災現場想定で先着隊として情報収集をし、伝達をする一連の訓練は高評価であり、今後の活動にすぐにでも生かしていきたいという声が多く聞かれました。担当として大変嬉しい限りです。

一日を通し、皆様の積極的に訓練に取り組む姿は、有意義で濃い一日となったと感じることができました。本課程で学んだ知識、技術を各所属へ持ち帰っていただき、地域防災力の向上に役立ててもらいたいと思います。今後とも消防団の皆様との協力体制は、災害に立ち向かうにあたり欠かせないものとなります。学びを止めることなく、更なる知識、技術向上に共に励んでいきましょう。

教務課主査 山下 大輔(駿東伊豆消防本部から派遣)

消防職員 幹部教育 上級幹部科 (第22期)



令和5年10月11日（水）～10月13日（金）の3日間、上級幹部科に各消防本部から13人が入校しました。幹部職員は、消防が直面する多くの課題に対し、効果的な施策を推進していく必要があります。そのために、管理職の役割、人事管理（ペップトーク）、業務管理（消防行政、訴訟問題、報道対応）などの講義で学ぶとともに、事例研究において、各所属の課題解決に向けての積極的な意見交換を行いました。

（担当教官コメント）

本教育訓練では、組織運営に役立つ様々なカリキュラムを組み合わせさせていただきました。管理職として多くの課題に直面されていると思いますが、講義や第22期の絆が解決への一助になれば嬉しく思います。

教務課主査 鈴木 敏弘（富士市消防本部から派遣）

初級幹部科（第25期）

～兼聴則明 偏信則暗～



令和5年10月16日（月）～10月27日（金）の10日間、初級幹部科を開催し、県内12消防本部（局）から組織の中核を担う18人が入校しました。

幹部職員の責務を学ぶとともに、災害現場での部隊管理や現場指揮といった災害対応力の強化を目標に、各種座学や濃煙熱気実火災訓練、多数傷病者対応訓練など多岐にわたる教育訓練を実施しました。

（担当教官コメント）

組織の中で上司を補佐し、部下を指導する中堅職員として、消防業務全般に関する理解だけでなく、実際の業務や訓練に反映できるような知識、手法の習得を目指しました。

特に現場指揮という教科目では、座学での指揮理論と数多くのシミュレーションや実働訓練を行いました。入校生の皆さんは集中力を切らすことなく訓練に臨み、実用に足る指揮技術を身につけたと思います。

また、業務課題についてのグループ討議と発表では、活発な議論の中に多様な視点や、消防に対する熱い思いが見られ、組織を担う各入校生の力強さを感じました。

この教育課程での学びや気づき、そして同期生との繋がりを各所属での業務に活かしていただければと思います。

教務課主査 吉瀬 大介（富士山南東消防本部から派遣）

県新規採用職員研修

～静岡県は私たちが守る～



規律訓練



救急実技



屋内消火栓放水訓練



体力練成

令和5年10月4日（水）から10月6日（金）まで、県の新規採用職員232人の後期研修が実施されました。

大規模地震等の様々な危機対策において中心的な役割を担う県職員としての自覚を促すことを目的に、各種訓練を実施しました。

研修生は、初めて臨む訓練に戸惑いながらも、仲間と協力し精一杯取り組みました。訓練終了時には、各人の行動はきびきびとし、顔つきも引き締まり、災害時に県民から信頼される県職員としての心構えを改めて学んだことと思います。

三沢校長から一言

先日、県庁の廊下を歩いていると、3名ほどに声をかけられました。「消防学校ニュースいつも読んでもよ！」ありがとうございます。励みになります。

前号の私のひと言には消防ネタがありませんでした。今号は消防ネタです。

ちょっと古い話題ですが、10月18日（水）に高圧ガス・危険物防災訓練が秋晴れの焼津漁港で行われました。カートリッジ缶やLPガスなど身近で便利なものに大きな危険があることを再認識させられました。関係者の皆さんおつかれさまでした。訓練に参加した志太・大橋消防長の活動服姿が凛々しく、また、5台の消防自動車とその前に並ぶ志太消防の精鋭達がとても格好よかったです。所謂「消防マニア」にはたまらないシーンだったでしょう。

翌19日には救助科の訓練に救助犬が参加してくれました。抜群の嗅覚と狭いスペースにも入っていける機動力、頼りになります。まだ経験の浅い犬の中に1匹のシェパードがいました。私はテレビドラマ刑事犬カールを思い出し、「カール！」と呼んだのですが、周りは刑事犬カールも木ノ内みどりも知らないようで、「このオヤジ、なに訳のわからんことを！」的な雰囲気です。周りだって大して若かない、と自分に言い聞かせながら、思いつ切り年齢的なギャップを感じてしまいました。彼らの知っているカールはカリオストロ公国クラリス王女の愛犬？それとも関西でしか売らなくなったお菓子でしょうか？



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町1-577-1
☎ 054-369-1190 FAX 054-369-1197 E-mail fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp



★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索